



大人も童心に帰れる場所。今日の笑顔は忘れられない一生の宝物。

たくさんの人であふれる園内。そこに流れるのは優しい時間。

# 夢、人、記憶が待っています。



Interview 03  
るなばあく



田原 学さん 64歳  
るなばあく園長

ユーモアに富んだイベントを企画  
笑顔あふれる遊園地を目指す

**日** 本一懐かしい遊園地るなばあくで2年半前から園長を務めている田原さん。「園長就任の話を頂いた時はわくわくしました。子どもの成長していく姿を見るのが何よりの楽しみです。あつという間に大きくなる子どもたちを、近くから温かく見守れる場所で働けたらと思っていました。でも、実際にやってみると、子どもだけでなく出会った人たちのドラマを垣間見ることができたり、その手伝いをさせてもらったり。就任してから毎日感動することばかりです」

その中で数十年ぶりに前橋に戻ってきたという女性から送られた手紙は、とても印象に残っているという。

「頂いた手紙には『50年ぶりに寄ってみたるなばあくで、遠い記憶の中の幼い自分が目の前を走り抜けていったんです。それがたまたまなくうれしくて、涙が流れました』と書かれていたんです。ハッとしました。それと同時にとても温かい気持ちになりました。ここは自分の思い出とも出愛えるすてきな場所なんだと実感できてうれしかった

です。ずっと、昔と変わらぬ電波塔やトンネル、木馬などの風景と再会して、子どものころの思い出がひもとかれたんでしょうね」

これから世代を超えて愛され続ける遊園地にするために、いろいろな仕掛け作りをしていきたいと語る。

「ここは誰でも気軽に寄れる場所。人との交流や幼いころの思い出、夢など、さまざまな思い出にあふれています。そのことに気付いていない人もまだまだ多いのではないかと思います。こちらから小学校や福祉施設に招待状を出したり、イベントを充実させたりと、多くの人たちにも来てもらえるよう積極的に働き掛けをしてきたいですね」

るなばあくには前橋の原風景がある。振り返れば、そこには日常では経験できない優しさや懐かしさが待っている。

「前橋城の堀だったこの場所は、周りから切り取られた昔も今も変わらないタイムカプセルの世界。それぞれの人がきつと大切な物と出愛えるはずですよ。遊びに来てください」



ガイドに園内を案内してもらおうと、バラについて多くのことが発見できる。

個人の庭を開放するオープンガーデン。愛情のこもった花々が訪れる人を魅了。

# 花好きの輪をもっと広げたい。



Interview 02  
敷島公園ばら園



小野塚 智勇さん 79歳  
前橋ばらガイドの会会長

花を愛する活動に従事  
オープンガーデンで自慢の庭も披露する

**毎** 年春と秋に行われる敷島公園ばら園まつりで、園内をガイドするボランティアとして参加している小野塚さん。「近所の敷島公園が3年前に全国都市緑化ぐんまフェアの会場に選ばれ、ばら園の素晴らしさをたくさんの人に知ってもらいたかったんです。しかし、花の知識がなかったので、すぐにガイドのボランティア養成講座に応募したんです。市内各地から講座に集まった大勢の仲間たちを見て、前橋の人は花好きな人が多いと感じました。『花が好きなのに悪い人はいない』といいますが、前橋のまちには緑や花があふれ、温かくて素朴な人が多いんです。仲間もみんな誠実な人ばかり。そのような仲間に出会える前橋はすてきなまちだなと思います」

**仲** 間と一緒に活動しているうちに、自身も大の花好きに。それまでとは人生が変わったと語る。

「フェアが終わって、ガイドのボランティアも解散かという時に『ぜひ、これからも継続してガイドをやろう。ばら園の素晴らしさをもっと広げたい』と

仲間から熱心な声が出たんです。わたしも同意見でした。ここから今のばらガイドの会が始まったんです。皆さん忙しい人ばかりですが、今でも集まって勉強会を開いています。園内のバラだけで600種類もあるので、全部覚えるのは大変ですが、その分、お客さんに喜んでもらえるときの感動は格別です。おかげで仕事を退職したらアユ釣りを思う存分やろうと思っていたのに、今では釣りよりも花に首っ丈なんですよ」

**花** を愛する活動はガイドだけにとどまらない。「敷島公園周辺の有志でオープンガーデンをやっています。仲間でお互いの庭を見せ合ったり、花の苗や情報などを交換したりしながら、助け合って活動しています。一緒に食事もしたりして楽しいですよ。自分が手入れた庭を見て、お客さんから『わたしもやってみたい』と言われるとうれしいですね。花はすてきな出愛いをもたらしてくれます。花好きの輪が広まり、今よりももっと花であふれた前橋になってくれれば、すてきなことだと思いますね」

## 色彩あふれるバラの楽園



西洋風の園内には世界中から集まった600種7,000株のバラが時代別、国別に植えられ、来園者を楽しませます。中でも、まえばしのバラ「あかぎの輝き」は変化していく色合いやその色彩豊かな姿がひときわ目を引きまします。バラの見ごろは5月中旬から6月上旬と10月中旬から11月中旬。これに合わせ、春と秋のばら園まつりを開催。夜にはライトアップも実施し、幻想的なバラの世界が照らし出されます。また、園内には萩原朔太郎記念館や蚕糸記念館などの施設があり、本市の歴史や文化に触れることができます。

## 水と緑豊かな文化のまち

豊かな緑と清らかな川の流れに恵まれた中心市街地には多くの名所があります。前橋公園の一角、中央児童遊園（るなばあく）は開園から約半世紀。世代を超えて愛されている遊園地です。その隣に風格ある趣でたすむのが臨江閣。文化行事などの会場として使われる歴史的建造物で、本館と茶室は県の、別館は市の重要文化財に指定されています。萩原朔太郎が歌った水量豊かな広瀬川の流れに沿って遊歩道を散策すると、ほとりには郷土の詩人や文学者を紹介する前橋文学館が。文人たちの作品に触れられ、その心を感じることができまします。

